

シダで夏涼み

8月に入り、暑さも本格的になって参りました。今月はそよそよと揺れる姿が涼しい、シダ植物を紹介いたします。

シダは種子ではなく、胞子で繁殖する植物です。主に熱帯に生息していますが、世界中で見ることが出来ます。林床と呼ばれる、木漏れ日程度の光しか入らない場所や、室内の光があまり入らないところでも育てやすく、人気が高まっています。また、暑さや寒さや病害に耐性があり、場所もそこまで選ばれません。寄せ植えだつてきてしまえば、手入れが楽で、難しくない植物を探している方にはとてもオススメです。シダと聞くと地味なイメージを思い浮かべる方も多いかと思いますが、飾り方次第でオシャレに飾ることも出来ます。初めて植物に挑戦する方も、何を置こうか迷っている方もこの機会にシダ植物に挑戦してみてください。

管理方法
本来は湿っている地に生息している種が多いので、土の表面が乾いたら水を与えましょう。特にタマシダ属(ネフロレピス属)は冬も地表面が乾かないよう水を与えてください。葉が乾燥しやすいため、毎日霧吹きで葉水を与えるのをオススメしています。

置き場所としては、直射日光の当たらない明るい場所が好ましいです。また、多く



①ピカクシダ陶器鉢入 ¥3,500+税 シンプルな丸い鉢でピカクシダの葉の大きさ、ユニークさを引き立てます。



②アスプレニウム エメラルドウェーブ陶器鉢入 ¥3,000+税 艶のある白い鉢と理々しいグリーンが清潔感を与えてくれます。



③茂った葉を切って水に浮かべてみるだけでも涼気なインテリアになります。



④ハイドロカルチャー寄せ植え(ブテリス&ネフロレピス) ¥3,000+税 ガラスの鉢が涼気なイメージ、夏のインテリアにピッタリです。

・ピカクシダ属(フレイセイリウム属)
熱帯アフリカや熱帯アジア、温帯オーストラリア等に生息しています。大型の着生シダで、貯水葉と呼ばれる部分の内側にしっかりと水を溜め込む性質があります。この貯水葉はミルキーユ状になっていますが枯れているわけではありません。鹿の角のような大きな葉の形が特徴的で、羽を広げたコウモリのようにも見えます。この個性的な葉の形でインテリアプランツとしても人気を集めています。見た目だけではなく、丈夫さも人気の理由の一つです。貯水葉があるため、他のシダに比べると水やりの頻度が少なく、春〜秋は水を乾かしてからたっぷり、メリハリをつけて与えます。冬の間は乾かし気味に管理しましょう。

・ブテリス属(イノモトソウ属)
熱帯や亜熱帯に生息しており、日本にも約15種存在します。葉の色も非常に個性があり寄せ植えなどにも重宝されます。常緑多年の地生シダで斜上や横に成長します。アルボリネータという品種は中央に美しい白い斑が入っており、葉の表面がツルツルしているのが特徴です。ハイドロカルチャーなら水を溜めて置けるので管理もしやすく、園芸用でなく

の種は5〜10℃が限界なので冬は注意してください。
病害虫には強いですが、ハダニ、カイガラムシ、アブラムシがやってくる時があります。カイガラムシやアブラムシは葉で予防できます。また、ハダニは乾燥した環境が好きですので、葉水を葉の裏までしっかりと与えることで予防できます。

・アスプレニウム属(チャセンシダ属)
多くが熱帯地域に生息していますが全世界で観察でき、日本でも約30種生息しています。横に成長するものから縦に成長するものまであり、葉の形も様々な個性があります。その中のエメラルドウェーブという品種は一枚の葉が波打つてまっすぐに伸びています。光沢があり、いきいきとしているのが魅力です。

も好みの器で楽しめますよ。
・フレボディウム属
熱帯アメリカに多く生息している着生シダです。地生シダはめつたにありません。多くは南アメリカに生息しています。根本が茶色の「鱗片」という葉が変化しただ組織で覆われているのが特徴で、葉は明るい緑色から暗い緑色まで様々です。日光を好みますが、夏の強い日光は日焼けしてしまいます。0℃以下にならないければ越冬できます。ブルースターという品種はシルバブルーの葉色で、成長するにしたがって葉が矢じりの様な形になります。色、質感、葉の形にも個性があり寄せ植えのワンポイントにもピッタリです。

他にも多くの属や品種が存在し、また、葉の形や質感も様々です。きつとあなたに合うものが見つかるはず。今年の夏はシダと一緒に切りませんか。

⑤シダの寄せ植え ¥4,500+税 同じシダでも葉の表情が様々なので面白い寄せ植えができます。茂った葉が風に揺れる姿に癒されそうです。

チランジア入門編



①最近の注目アイテム、マクラメはチランジアとも好相性です。



②涼し気な良縁のキャッチャーに小さなチランジアを組み合わせました。揺り付けるだけなので、季節に合わせての模様替えが手軽に出来ます。

インテリア雑誌やテレビなどでも取り上げられ年々人気が高まっているチランジアですが、「育ててたんですけど枯れてしまつて」というご相談をよく耳にします。メディアなどでお手軽プランツとして紹介される事が多いチランジア故に「特に何もなくても枯れない」と誤解をされている方が意外と多いのではないのでしょうか。

元々チランジアが自生しているのは北アメリカ大陸〜中南米と広範囲に渡ります。共通するのは「やさしい光」「ときどき雨」「風が吹く」「湿度が高い」という事。品種によって多少の違いはありますが、これからご案内するポイントをおさえて頂ければ、どんなチランジアでも元気に育てられるはずですよ。

◇日当たり◇
直射日光を避けた明るい場所が理想的です。室内で育てる場合はレースのカーテン越しに日が当たる場所で育てましょう。夏場は室内でも直射日光は避けて下さい。最低10℃以上保てる時期なら半日陰の戸外でOKですが、地面は熱が高くなつてるので直置きはしないで下さい。

◇水やり◇
「水をやらなくても育つ」と勘違いされている方も中にはいらっしゃいますが、実はチランジアはお水が大好きです。2〜3日に一回は霧吹きでしっかり湿る程度にお水を与えましょう。時間帯は気孔が開く夕方以降に、(冬の場合はあまり夜遅くにやると凍結のおそれがあるので注意)夏や冬は乾燥しがちなので1日置きでOKですが、梅雨時期など湿度の高い時期は様子を見ながら2〜3日置き位に与えてください。



④人気のキセログラフィカをテラリウム仕立てに。良縁やヒトデが夏らしさを演出しています。水やりの時は一度取り出して風に当てて上げましょう。

表面がカサカサしてきたり、持った感じがいつもより軽くなつたら水切れのサインです。ソーキングといって、水をはった洗面器などに数時間漬けてあげる事でシャキッと元気になります。株に水が溜まっていると菌が繁殖し腐ってしまうので、水やりやソーキング後はチランジアを逆さまにしてしっかりと水を切りましょう。

◇風通し◇
風がない所ではチランジアは育ちません。戸外でしたら自然の風が当たりますが、室内で育てる場合や器の中に入れて育てる場合は注意が必要です。風といってもエアコンの風が直接当たる場所は乾きすぎるのでNG。扇風機で室内の風を循環させてあげるのとは違って、特に夏の水やり後に高温が続くと蒸れてしまうので、扇風機の微風を当てて上げる方がいいですよ。
土が不要で手軽に自由な発想で楽しめるチランジア、上手に育てればお花が咲いたり子株が増えたりして色々な変化を見せられるので、置いておくだけでなくぜひお話しする楽しみも満喫して頂きたいです。名古屋園芸舎2階売場にも不定期で色々なチランジア運が入荷してきますので、覗きにいらしてくださいね。

夏のガーデニング

いかに手を加えず楽しむか



④トウガラシのリース
トウガラシは株が大きくならないのでリースの形が整ったまま楽しめるのがいいところ。



④トウガラシとカラーリーフの寄せ植え
花を最小限にすることによって暑いときのメンテナンスが楽になります。



④カラーリーフの寄せ植え
夏のイメージを残しつつ、初秋もかんじることのできる組み合わせで植え込みました。



④トウガラシMIXの寄せ植え 8月は種類豊富にトウガラシが入荷します。トウガラシだけでも素敵な1鉢ができます。

8月に入ると名古屋もはげしい猛暑に見舞われます。ここ最近の天候は、植物にも非常に厳しい天候になってきています。湿度の上昇もさることながら、ゲリラ豪雨も非常に激しいものがあります。
そのような厳しい環境でも植物に囲まれたいと思ってしまうのが好きのみならずではないでしょうか。しかしこの暑さは花好きといえどこたえ難い暑さ。いかに手を抜くながら楽しむかがポイントになります。

どうしても暑さに強くて丈夫なお花を探したくなるのはよくわかります。でもそこで少し視線を変えてお花以外のものをメインにするのもメンテナンスが楽に楽しむことができます。その代表格がトウガラシです。タカノツメやハバネロなど食用としても多様なトウガラシも、この季節は色鮮やかな葉を飾るにはぴったりの花材なんです。8月もお盆をすぎると猛暑は続きますが気分は何となく秋の気配を感じるようになります。その季節感を楽しくするにはびつたりな花材がトウガラシです。色によつて夏色にもなり秋色にもなる便利アイテム。
トウガラシにはもうひとついいところがあります。観賞用のトウガラシは実がついた状態なので株が極端に大きくなることはありません。寄せ植えアイテムとしては暮れることがないので使いやすい花材です。寄せ植えにはびつたりですね。そこにお花以外でカラーリーフ(要するに葉っぱです)を組み合わせていくとメンテナンスがラクチンな一鉢ができます。トウガラシを育てるよりもずっと手軽に育てられます。
今までもお花を育てるのが難しいと思つていた園芸ビギナーのみならずもトウガラシ、カラーリーフからはじめてみると案外うまくいくと思います。